

〔特別決議〕

昨年度加入者数・拡大分会数突破、全支部拡大達成、2年連続の「純増」達成に確信をもって、すべての分会で新しい仲間を迎えましょう！

「私はこれまで多くの組合員に支えられてここまでくることができました。学校は以前と比べて管理的になってきましたが、子どもたちの幸せと、夢をもって働ける職場を守っていくために、今、自分にできることは何だろうと考えたとき、自分が埼高教の組合員になることだと思いました」

これは昨年末に加入した退職まであと2年を残すあるベテラン教員の声です。埼高教は県内のすべての高校・障害児学校に分会を結成し、教員・実習教員・司書・養護教員・寄宿舎指導員・事務・栄養職員・現業・介助職員などすべての職種に専門部を結成し、埼玉の民主教育の発展と諸要求実現のために、どんな困難なときでも職場を基礎にとりくんできました。また、「教育に臨時はない」を合い言葉に同じ職場の仲間として、臨時教職員の運動にも全力をあげてとりくんできました。

こうしたなかで埼高教は現在 名の新しい仲間を迎え、昨年・今年と2年連続「純増」を達成しました。この数は1989年の労戦問題以降、最大の組合員拡大であり、また、とりわけ拡大分会数が になり、実に全分会の半数近くの職場で新しい仲間を迎えたことは大きな自信と確信につながります。

今、新自由主義的「教育改革」のもと、さまざまな攻撃がかつてない規模とスピードで職場や一人ひとりの教職員に押し寄せています。また、自公連立政権は政治や経済の失敗を国民に押しつけ、「貧困と格差」は子どもたちの教育にまで大きな陰を落としています。まさに憲法を踏みにじる「政治」を続けている政府・与党の責任は重大です。このような情勢の中で、年末に大きくマスコミでも報道された「派遣村」や障害者自立支援法の見直しをもとめる裁判など、「このままではいけない」「なんとかしたい」という人間の尊厳をもとめた社会的な連帯と大きなたたかいもはじまっています。学校現場でも、少なくない教職員が新自由主義的「教育改革」に怒りをもち、子どもたちの教育権を守りたいと願い、その中で教育の条理を尽くしてたたかう埼高教に高い関心と共感をもっているのも事実です。

2008年度賃金・労働条件確定闘争において、主幹教諭は導入されましたが、教職員の自主性・共同性・専門性を尊重し、教職員がこれまでに以上に自発的・創造的に学校運営に参加する原則を確認しました。主幹教諭の県段階のたたかいを、各職場で学校づくり・職場づくりに生かし、実践していく上でも、これまで以上に強く大きな分会をつくり上げていくことが不可欠です。すべての分会・組合員が、この間のたたかいの到達点に確信を持ち、学校と教育を民主的に発展させ、諸要求実現のために、多くの教職員に「今こそ埼高教へ」と大きく声をかけていきましょう！

右、決議します。

二〇〇九年二月七日

埼玉県高等学校教職員組合 第三二〇回拡大中央委員会